

▽アルテルナリア（ススカビ）
アレルギー性鼻炎、気管支喘息のアレルゲンとしても重要です。

【ペット】
イヌネコなどのペットアレルゲンは、フケの成分が主要なアレルゲンとなります。
ペットアレルゲンは、飼育している家庭だけでなく、公共の場等から衣類に付着し人を介して持ち込まれることもあります。³⁾
また、ペットとして飼育されているイヌやネコの場合、飼育者と日常的に接しているためアレルギー症状との因果関係に気づかれない場合も多いです。
原因が飼育しているペットとわかることは、患者さんへの環境整備指導がしやすくなります。

【参考】

- 1) アレルギーの臨床 17, 1014, 1997
- 2) アレルギー 54, 531, 2005
- 3) アレルギー・免疫 20(3), 418-425, 2013

屋内で重要なアレルゲンはダニだけじゃない！
<http://www.keihin.gr.jp/image/kml-pdf/allergen2015-05.pdf>

検査項目	: CAP16 鼻炎・喘息
検体量	: 血清 1.2mL
容器番号	: 1
保存方法	: 冷蔵
検査実施料	: 1430点
検査判断料	: 144点（免疫学的検査）
所要日数	: 3～5日
基準値	: 0.34UA/mL 以下

2 ヒトパピローマウイルス（HPV）と子宮頸がん

ヒトパピローマウイルス（HPV）は子宮頸がん患者の約90%で検出されるとされ、その感染が関与している事が知られています。HPVは性交渉により感染しますが、感染者が将来必ず子宮頸がんになる訳ではありません。
感染者の9割の方は、2年以内に自然に排出するとされています。しかしながら、ウイルスが自然に排出されず持続的に感染した場合には、がんになる場合があります。
HPVは100種類以上がありますが、子宮頸がんに関与しているとされるHPVはハイリスク型、ローリスク型に大別する事が出来ます。
国際がん研究機関（International Agency for Research on Cancer : IARC）では、14種をハイリスク型（16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、66、68）として提唱しています。
日本人の子宮頸がん患者から検出されたHPVの型は、16型および18型が約6割を占めています。

子宮頸がんは、年間約10,000人罹患しており、20代後半から増えて40代以降で横ばいになりますが、近年では20歳から30代後半の特に若い世代で患者さんが増えている傾向がみられます。また子宮頸がんによる死亡者数は年間約3,000人と報告され、30代後半から増える傾向があります。

細胞診検査のみでは前がん病変の発見率は70～80%ですが、HPV検査を併せて行うことでより精度の高い診断が可能となります。現在、日本の子宮頸がんの定期検診は2年に1回、細胞診検査が実施されていますが、一部自治体では既にHPV検査を加えた併用検診を実施しており、今後増えてくと予測されています。

参考：KML INFORMATION 25-16
<https://www.kml-net.co.jp/pdf/2013-0730.pdf>

検査項目 : HPV (簡易型判定)
項目コード : 5572
検査材料 : 子宮頸部擦過物
容器番号 : 61
保存方法 : 冷蔵保存
検査実施料 : 360点 ※
検査判断料 : 150点 (微生物学的判断料) ※
検査方法 : リアルタイムPCR法
所要日数 : 3~6日
基準値 : ハイリスク16型 : (-)
ハイリスクHPV18型 : (-)
他・ハイリスク12種 : (-)

- ※
- ア. HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)は、区分番号「D023」微生物核酸同定・定量検査の「5」HPV核酸検出の所定点数に準じて算定する。
 - イ. 当該検査は本区分「5」のHPV核酸検出の施設基準を届け出ている保険医療機関のみ算定できる。
 - ウ. 当該検査は、予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US(意義不明異型扁平上皮)と判定された患者に対して行った場合に限り算定できる。
なお、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。
 - エ. 当該検査をHPV核酸検出と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

3 第1回 KML学術セミナー『甲状腺機能異常症のプライマリケア』

3月12日(木) ホテルモントレ横浜において、
第1回 KML学術セミナーが開催されました。

日程 : 2015年3月12日(木)
会場 : ホテルモントレ横浜

座長 : 宮川 めぐみ先生
国家公務員共済組合連合会 虎の門病院 内分泌代謝科医長

講演 : 谷山 松雄先生 『甲状腺機能異常症のプライマリケア』
昭和大学藤が丘病院 内分泌代謝科教授

座長の宮川めぐみ先生による開会挨拶から始まり、谷山松雄先生にご講演頂きました。

甲状腺疾患は心臓病、神経・精神疾患、更年期障害などと症状が似ている事で、臨床の現場でのバセドウ病、橋本病(慢性甲状腺炎)および甲状腺機能低下症の早期発見と適切な治療に努めて欲しいとの講演内容でした。

最後に活発な質疑応答が行われ、予定時間を大幅に上回る程で、盛会のうちに終了しました。ご参加頂きました先生方には心より御礼申し上げます。

4 KMLインフォメーション 3月~5月分のお知らせ

前回メールニュースを配信しました後から現在までに発行されました「KMLインフォメーション」についてお知らせ致します。

各インフォメーションにつきましては、医院様へ随時お届けしておりますが、ご確認などに活用して頂ければ幸いです。

2015年3月24日
PCRクラミジア・ gonoreia拭い検体採取セット変更のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0324.pdf>

2015年 4月17日 検査一時中止のお知らせ
<http://www.kml-net.co.jp/pdf/2015-0417.pdf>

■ □ = = = = =



最後までお読み頂きまして有り難う御座いました。

編集／発行 <http://www.kml-net.co.jp/>
株式会社 京浜予防医学研究所
〒216-0001 神奈川県川崎市宮前区野川 1432-1

= = = = = □ ■